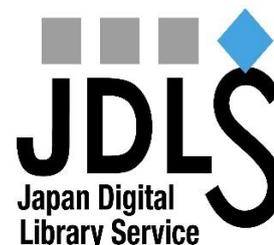


本ニュースリリースは、大日本印刷、武庫川女子大学、日本電子図書館サービスの共同発表です。重複して配信される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

News Release



2017年7月14日
大日本印刷株式会社
武庫川女子大学
株式会社日本電子図書館サービス

大学と書店、出版社が連携 電子図書館を導入し、学生の読書習慣の育成に向けた実証実験を開始 — 武庫川女子大学で、7月より実施 —

大日本印刷株式会社(以下:DNP)と武庫川女子大学、株式会社日本電子図書館サービス(以下:JDLS)は共同で、大学における電子図書館を導入し、学生の読書習慣の育成に向けた実証実験を武庫川女子大学で実施します。また大学内にある紀伊國屋書店のブックセンターや近隣書店と連携し、電子書籍の閲覧が、紙の書籍の購買に繋がるかといった効果検証も同時に行っていきます。

【実証実験の背景】

近年、生活環境の変化や様々なメディアの発達・普及などにより、学生の読書・活字離れが進んでいると言われています。全国大学生生活協同組合連合会が実施した調査では、大学生の1日の読書時間は平均24.4分と、前年比で4.4分減少しているほか、学生の約半数が、1日の読書時間を「0」と回答するなど、読書離れの実態が浮き彫りになる結果となりました。*

こうした中、各大学はICT環境を整備し、学生が普段使い慣れているスマホやパソコンでの読書機会の提供に取り組んでいます。今回、DNPと武庫川女子大学、JDLSは共同で、学生の読書習慣の育成をめざし、電子図書館を活用した実証実験を武庫川女子大学で実施します。

*第52回学生生活実態調査

【電子図書館サービスの概要】

今回の実証実験では、自宅や学内のパソコンやスマートフォン、タブレット端末で、インターネットを通じて、電子書籍の検索・貸出・閲覧・返却ができるDNPの電子図書館サービスを利用します。図書館利

ユーザーは、会員 ID とパスワードを入力するだけで、電子書籍を検索して閲覧することができ、貸出処理を行うことで、紙の書籍と同様に一定期間、特定のタイトルを閲覧することもできます。JDLS は、国内の多くの出版社から電子書籍の提供を受けており、電子書籍を閲覧できる回数や期間に制限を設けるなど、著作権者の利益に配慮しつつ、新刊本やベストセラーといった生活者に人気の高いコンテンツを提供しています。さらに、ネットワーク基盤構築を行う西日本電信電話株式会社(以下:NTT 西日本)と連携して、電子図書館における学内のネットワーク基盤やクラウド環境でのサービスインフラの構築、サービスシステム、コンテンツまでトータルで提供します。

【実証実験の概要と各社の役割】

対象:全学生及び職員

期間:2017年7月～2019年3月

提供コンテンツ:文芸や学生のニーズが高い資格試験系書籍など、2017年7月時点で約1400コンテンツを提供し、今後も順次増やしていく予定です。

実施内容:

- ・学生や職員が所有するスマートフォンやパソコンから、電子図書館サービスにアクセスし、IDとパスワードを入力、ログインすることで、電子図書館サービスのコンテンツを自由に閲覧できるようになります。
- ・学生が普段使い慣れているスマホやパソコンを活用することで、読書がしやすい環境を整備し、読む習慣の定着化を目指します。
- ・大学内にある紀伊國屋書店のブックセンターや近隣書店と連携し、電子書籍の閲覧が紙の書籍の購買に繋がるかといった効果検証も行います。
- ・電子図書館サービスを活用した読書会の開催をします。
- ・授業での利用を通して学生同士で楽しみながら、新たな気づきを得られる共創学習の体験を提供します。



本実証実験の様子

■各社の役割

DNP:	電子図書館サービスの提供
日本電子図書館サービス	出版コンテンツの提供
武庫川女子大学	本実証実験の実施及び、学生のサポート

大日本印刷株式会社

本社:東京

社長:北島 義俊

資本金:1,144 億円

株式会社日本電子図書館サービス

本社:東京

社長:高橋 裕司

資本金:2 億 2000 万円

